

B5用紙

(○定例・個人)

(報告 浜野)

山(山域・ルート)南アルプス 便ヶ島より 聖(ひじり)岳 3,013m

【日時】 21年9月20日(日)～9月22日(火)(2泊3日)

【メンバー】 L阿部、中村、石川、小川
国孝、奥津、内布、P浜野
(計7名)



【行動記録】

9月20日 6:00大宮～10:40飯田

(食事、買い物)～15:00便ヶ島

9月21日 5:45便ヶ島～6:20西沢

渡～10:30薊畑 10:55発

11:40小聖～13:07聖岳頂上 15:10薊畑～15:50聖平小屋

9月22日 5:50小屋発～6:30薊畑～9:40西沢渡～10:20便ヶ島

～21:10大宮 上り約10時間 下り4時間30分

【装備・食料等】

テント泊、1泊の小屋泊まりの装備 1日目の夕食の材料(鍋物)

【感想】

9月21日 大宮駅西口を6時出発。天気は何とか3日間持ちそうで少し安心。圏央道八王子ICで中央道に入りそれほどの混雑もなく飯田に1.1時前に着いた。市内の大型スーパーで昼食を済ませ夕食の材料を買って、飯田の町をあとにしたのですが途中の道がそれはもう大変でした。道幅は狭い、でこぼこ、がけ崩れの不安もあって気が気ではない。ある村で対向車とすれ違うのに2～30分掛かるほどでした。ようやくテント場であり登山口の便ヶ島に15時到着！ここは広い駐車場と屋根付きの炊事場、頑丈な木の椅子、テーブルの食堂もあり安心して食事ができる。使用量は車1台につき500円でした。

9月22日 晴天を約束してくれるような朝日を浴びて5時45分に歩き始める。所々にがけ崩れの跡があるなだらかな道を30分程行くと西沢渡に出る。沢を渡るにはロープを使う手動式ゴンドラか木道を歩くかです。ゴンドラに乗る余裕はないので木道を歩く。木道は最近作られたらしい。

ここから薊畑まで樹林帯の急登が続き、きつい道だ。途中から原生林に変わり

倒木には苔がびっしり付き、抹茶ロールケーキのようでとてもきれいだった。南アルプスらしい美しい霧田気がたっぷりの場所だ。左側の木々の間から兎岳が見えて来たりして、ようやく聖岳と小河内岳方面の分岐の薊畑に着いた。ここまで5時間の道程だった。予定の時間より1時間以上早く着いてしまった。地図だと6時間半の行程なのだが、私たちが特に早い訳ではないようだ。インターネットで見た登山者の記録も地図より短いように思った。

そんな訳で聖岳登頂に決定。往復5時間は掛かるので今日登れると明日の行動が大変楽になる。おまけにこの快晴は今日だけらしい。正直自分の体力も気になりホッとした。ここに荷物を置きサブザックで出発。小聖までは急登もなくリンドウなども咲いていて楽しい道だ。小聖を過ぎると青空をバックにドーンと大きな聖岳が見える。やせ尾根をしばらく歩きいよいよ本峰に取り付く。1本の木もない大斜面をあえぎながら登るが1歩足を出すと半歩戻るようだ。

憧れの聖岳頂上に13時7分に到着。360度のパノラマで目の前に大きな赤石岳、富士山はもちろん北アルプスなども見え、午後なのに素晴らしい眺めだった。小聖辺りの紅葉も見える。頂上に心を引かれながら登ってきた急斜面を下る。細かい砂利混じりの道は滑りやすく転ばないように歩くのはとても疲れる。

デポしたザックを背負い聖平小屋に15時50分に着いた。小屋の近くには木道が作られている。8月頃なら高山植物があるのだろう。小屋は思ったほどの混雑ではなかった。寝具は南アルプスの他の小屋と同じで寝袋が用意されている。タオルとかスカーフで顔の周りを覆うものを用意したらいいと思う。小屋の霧田気はとても良かった。従業員も親切で食事にも神経が行き届いている。トイレは少し離れているが清潔だった。今日は登頂もでき小屋へも早く着いて、気持ちに余裕があり楽しいひと時を持てた。

9月22日 最後の朝は曇り空だ。昨日山頂に登って本当に良かったと思う。天気はもちろん、時間的にも余裕を持って行動出来るので助かる。

今日は往路を西沢渡までの急坂を下るので、膝を痛めないかと心配だ。登りでは気に留めなかったが、あちこちに赤と黄色模様の簡単なテープが張ってあり「滑落注意」の立て札があった。無事西沢渡に到着。沢を渡るのに今度は手動式ゴンドラに乗って思い切り楽しんだ。みんなの笑顔がとっても素敵でした。

下山後は温泉に入りおいしいお蕎麦を食べて家路に着いた。

南アルプスの奥深く、大きな聖岳に登頂でき幸せに思います。リーダーをお願いした阿部さん、同行の皆さん有難うございました。